

医療現場に“足場”設置

3講座が附属病院で診療支援など展開



高石喜久教授

徳島大学は06年春から、6年制課程の薬学科（定員40人）と4+2年制課程の創薬薬学科（40人）を擁する体制に移行した。両学科を車の両輪と捉え体制整備を急ぐ中、医療薬学教育を充実させの方策を検討してきた。その中で、「医学部・歯学部の教員は常に臨床に関わりながら教育も行なっている。薬学科はワーキンググループを設けて話し合い、その骨格を決定。3講座を附属病院の一角に移動することにも合意した。大

学部はワーキンググループを設けて話し合い、その骨格を決定。3講座を附属病院の一角に移動することにも合意した。大

徳島大学薬学部は2006年4月に既存の講座を改組し、国立大学では初めて附属病院と連携した3分野の臨床薬学講座を設置した。講座には、薬物体内動態解析、医療情報提供など診療支援機能を持たせ、医療現場との連携を深める。10年には附属病院の一角に3講座を移動する予定で、名実共に医学部の臨床講座と肩を並べる。「薬学部がやっと病院の中に足場を持った」（高石喜久教授）とし、3講座を核に医療薬学系教育・研究を推進する考えだ。【医療の現場と直結した薬剤師養成教育】

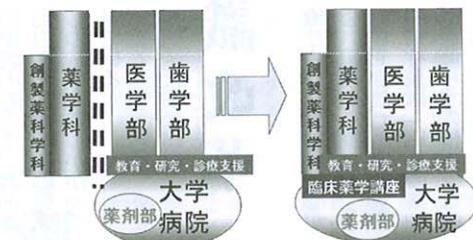
育の実践』と題した取り組みには06年度から3年間、文科省の研究費がついた。能動学習制度、少人数教育、教員再教育なども展開する。06年度中に計画を固め、07年度から順次実行に移す予定だ。

医師が手放さない薬剤師に

ついている。薬学も教育を担当しながら実務も行うべきではないか」ととの課題が浮上。それを解決するため、医療現場と深く連携する3講座の設置が決まったといふ。

ポイントは、これら3講座に診療支援機能を持つたせたことだ。

具体的な機能について、医学部、歯学部、薬



臨床薬学講座を拠点に、医療現場と直結した薬剤師養成教育を行う

う▽医薬品機能分析分野では、患者個人に対する薬物療法の設計や治療への関与、代替物療法の提供などをを行う――とい

うもの。基本的に、診療報酬がつく業務は從来通り附属病院薬剤部が行い、こ

れら3講座は、診療報酬の対象外だ

が医療現場の要望がある業務を担当する計画だ。

5年次に実施される長期実務実習にも深く関与す

る――医療現場でチーム医療に連携したい。実際に医療卒業した薬剤師はよそとは違うと言われる人材を育成したい。卒業した薬剤師はよそとは違うと言われる人材を育成したい。実際には、薬剤師教育を解消できる」と

高石教授。（徳島大学を卒業した薬剤師はよそとは違うと言われる人材を育成したい。実際には、薬剤師教育を解消できる」と

高石教授。（徳島大学を卒業した薬剤師はよそとは違うと言われる人材を育成したい。実際には、薬剤師教育を解消できる」と

高石教授。（徳島大学を卒業した薬剤師はよそとは違うと言われる人材を育成したい。実際には、薬剤師教育を解消できる」と

高石教授。（徳島大学を卒業した薬剤師はよそとは違うと言われる人材を育成したい。実際には、薬剤師教育を解消できる」と

「能動学習制度」も導入へ

臨床薬学講座の設置以外にも特徴的な教育制度をいくつか導入する計画だ。実行可能なものは随時07年度からスタートさせるという。

その二つが「能動学習制度」。集合研修や自己研修を学生が自主的に受講し、規定のポイントを獲得。試問・レポートによる評価を受けて単位を取

得するものだ。

このほか、教員が5人程度の学生を担任し、各

テーマごとグループ討議などを行う「少人数教育」は06年春から既に実施されている。

具体的な機能について、医学部、歯学部、薬

学科はワーキンググループを設けて話し合い、その骨格を決定。3講座を附属病院の一角に移動することにも合意した。大

学校部はワーキンググループを設けて話し合い、その骨格を決定。3講座を附属病院の一角に移動することにも合意した。大

学校部はワーキンググループを設けて話し合い、その骨格を決定。3講座を附属病院の一角に移動することにも合意した。大

学校部はワーキンググループを設けて話し合い、その骨格を決定。3講座を附属病院の一角に移動することにも合意した。大